



## セッション2：小児保健

座長	演題 番号	演題および筆頭演者
公益社団法人滋賀県理学療法士会 川崎 浩子	4	リハビリ専門職による地域の子どもの運動指導の課題と可能性 合同会社 TMK 藤本 鉄矢
	5	大津市のシステムにおけるリハビリ職障害児保育巡回 ～多職種の見点から～ 大津市立やまびこ総合支援センター内知的障害児者地域生活支援センター 加納 雪絵
	6	地域の中で働く作業療法士の専門性 ～多職種との連携で見えてきた児童支援の現状と課題～ 米原市地域包括医療福祉センターふくしあ 中瀬 弘士

### (座長コメント)

セッション2の総括として、新しい事業や認知度の低い事業を推進するためには、それぞれの専門職のもつ、世にあまり知られていない「強み」をもっとアピールしていくこと、課題解決の方策として、柔軟な思考で、多職種と連携できる体制づくりが重要であると考えさせられる内容でした。このセッションで発表された取り組みが広がれば、地域格差を解消し、自分の住む地域で安心して生活できる未来を創造していけるのではないかと可能性を感じました。発表者の皆様には、今後も先駆者として取り組みの成果を発信して、滋賀県を元気づけていただきたいと思います。

## 一般演題発表 ブレイクアウトルーム

### セッション1：組織内連携

座長	演題 番号	演題および筆頭演者
一般社団法人滋賀県介護老人保健施設協会 生熊 勇基	7	新型コロナウイルス感染症の院内クラスター発生時の リハビリ職員としての取り組みと課題 医療法人幸生会琵琶湖中央リハビリテーション病院 浅利 和紀
	8	クラスター禍での回復期リハビリテーションの機能維持 医療法人幸生会琵琶湖中央リハビリテーション病院 赤尾 順子
	9	自立歩行を目指したケアマネージャーとの関わり 長浜市社会福祉協議会 藤本 三智姫

### (座長コメント)

#### ・演題番号7

病棟職員が濃厚接触者になるケースや新型コロナを発症して、出勤できない職員が続出、日常的なケアもままならないという非常に困難な事態に陥りました。リハビリ職員がケア要員として全病棟へ配置される中、リハビリの提供について奮闘した様子が伝わりました。評価の重要性とリハビリの必要性について実感した事例でした。

・演題番号 8

今回の対応では、リハビリテーションを提供するに当たって、パンフレットの提示も行いましたが、感染者のゾーニングを行って、リハビリ実施場所をリハビリが必要な場所に配置したのが大きな対策になりました。

新型コロナウイルス感染症はもはや災害といってもよいくらい、医療従事者・介護従事者にとって大きな問題といえます。病院は常に患者の入退院が繰り返されているので、新型コロナウイルス感染症を防ぐことは、特に急性期・回復期病院ではまず不可能です。BCP 事業継続計画で被害最小化と早期復旧をしっかりと行うことは、病院の信用問題に直結する課題だと思います。今回のクラスターを教訓にして、病院全体で多職種が連携して、病院としての機能を高めていくという課題がみえた事例でした。

・演題番号 9

デイサービスでの訓練効果と生活面の結びつきが当初は思ったようになりませんでした。最終的に監視下での歩行が可能になるほど ADL の向上がみられた事例でした。

ヘルパーへの介助指導やケアマネジャーとの情報共有など、多職種連携でご利用者の生活へのアプローチ方法をセラピスト自身も新たな知見として得ることができたと思います。今回の症例で得られた教訓を活かして更なる成長を期待しています。

セッション 2：地域連携

座長	演題番号	演題および筆頭演者
公益社団法人滋賀県看護協会 平岡 千夏	10	大津医療圏における当院の中間的役割の紹介 医療法人幸生会琵琶湖中央リハビリテーション病院 八里 亮太
	11	健康サポート薬局・地域連携薬局として 在宅・居宅療養管理への介入に必要な側面の考察 下田薬局 江藤 良輔
	12	シームレスな連携の大切さ 社会福祉法人 達真会 多賀清流の里 作田 友哉

(座長コメント)

3 題とも実践活動から地域連携の大切さを気づかせてくれる発表でした。

高齢になっても、病気になっても、ご本人が望むところで暮らしていけるよう、色々な専門職が自らの役割意識を持ち、活動していただいていることがわかり、心強いと感じるとともに、喜ばしいと思いました。





### 【考察】

幼少期に特別な支援が必要な子どもの数は年々増加している。これらの子どもの困りごとの内容で「落ち着きがない」、「集中力がない。」といったニーズを多くの支援者から聞く。

背景:

・感覚の偏り・視知覚の問題 等 医学的背景が大きく影響している。

↓

感覚や運動など神経学的所見から評価が必要。→作業療法が有効！  
(※心の理論の問題など心理学的な捉え方が必要な子どもも多い。)

↓

多職種がチームとなり課題を検討していく必要が考えられる。

### 企画演題

○ 「さまざまな分野での多職種連携 ～歯科医院での取り組み～」

講師：田中 美智子 氏（公益社団法人滋賀県栄養士会）

座長：大西 啓之 氏（一般社団法人滋賀県歯科医師会）

(座長コメント)

普段、我々医療従事者の「多職種連携」といえば、在宅、認知、フレイルなど高齢者に対するキーワードであり歯科においても同様である。そこに、院内での連携でしかも乳幼児とその（母）親をターゲットにした多職種連携の発表で、いち歯科医師の私にとっても目からうろこの内容であった。取り組みに関してもなるほどの内容で、連携を新たに始めるためには連携する相手方の手助けをする形にもっていけるとスムーズに進む事を改めて気づかせてもらった。講師の解説も非常にわかりやすく歯科関係者以外の方にとっても興味がわくいい発表だったと思う。

企画演題

さまざまな分野での多職種連携  
～歯科医院での取り組み～

03

講師：公益社団法人滋賀県栄養士会  
田中 美智子 氏

座長：一般社団法人滋賀県歯科医師会  
大西 啓之 氏

管理栄養士が歯科医院でできる支援

小児歯科  
離乳食教室・幼児食教室  
むし歯予防教室  
小児食事指導  
乳幼児食料理教室

一般歯科  
矯正歯科

障害歯科

訪問歯科  
訪問栄養指導  
嚥下食指導  
高齢者向け料理教室

食生活の聞き取りから個別栄養指導、間食指導  
疾患に応じた食事指導  
食生活セミナー

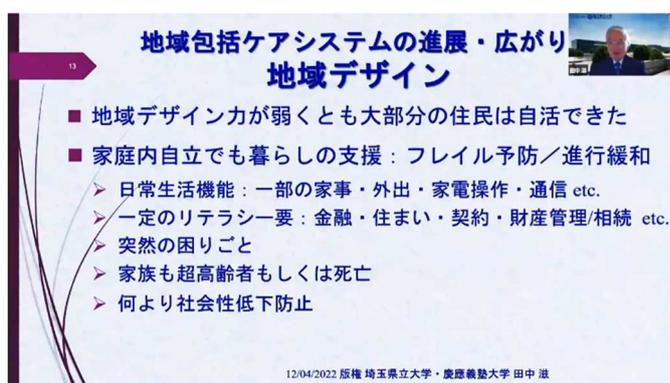
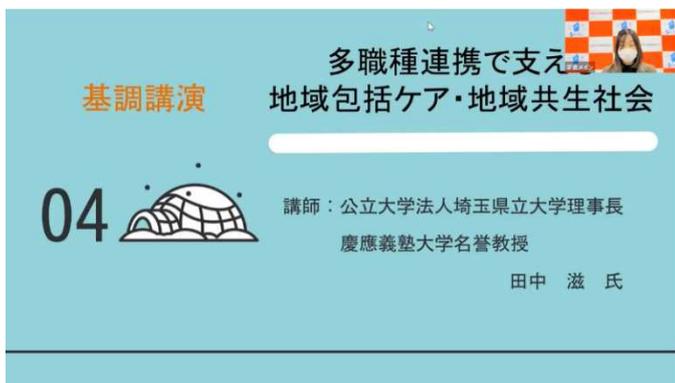
個人及び集団を対象とし、栄養の評価・  
診断・計画に基づいた栄養食事療法・情  
報提供・食環境整備・食育活動  
を行う



## 基調講演

○「多職種連携で支える地域包括ケア・地域共生社会」

講師：田中 滋 氏（埼玉県立大学理事長・慶應義塾大学名誉教授）



※参加者からの質問は後日受付をし、講師からの回答を HP 上に掲載

## 閉会のあいさつ

実行委員長挨拶



## 《協賛ご芳名一覧》（※敬称略・五十音順）

- ・一般社団法人滋賀県医師会・一般社団法人滋賀県介護老人保健施設協会・一般社団法人滋賀県作業療法士会
- ・一般社団法人滋賀県歯科医師会・一般社団法人滋賀県歯科衛生士会・一般社団法人滋賀県病院協会
- ・一般社団法人滋賀県薬剤師会・公益社団法人滋賀県栄養士会・公益社団法人滋賀県看護協会
- ・公益社団法人滋賀県社会福祉士会・公益社団法人滋賀県理学療法士会・滋賀県介護支援専門員連絡協議会
- ・滋賀県言語聴覚士会・溝井 敬子（一般社団法人滋賀県歯科衛生士会）・滋賀県立リハビリテーションセンター

## 《協賛広告ご芳名一覧》（※敬称略・五十音順）

- ・一般社団法人滋賀県老人福祉施設協議会
- ・医療法人幸生会琵琶湖中央リハビリテーション病院
- ・社会福祉法人六心会